



きらら としょかん  



新屋図書館だより

発行：秋田市立新屋図書館

秋田市新屋大川町12-26 ☎ 018-828-4215

<https://www.city.akita.lg.jp/kurashi/shakai-shogai/1008469/1008848>

No. 241

R4. 2月号

映画鑑賞会 「島だって夢を見る」

出演：深水三章、深水元基、目黒真希 他

監督：田中早苗

日時：令和4年2月19日（土）

第1回 10:30~11:55

第2回 14:00~15:25

場所：新屋図書館 研修室

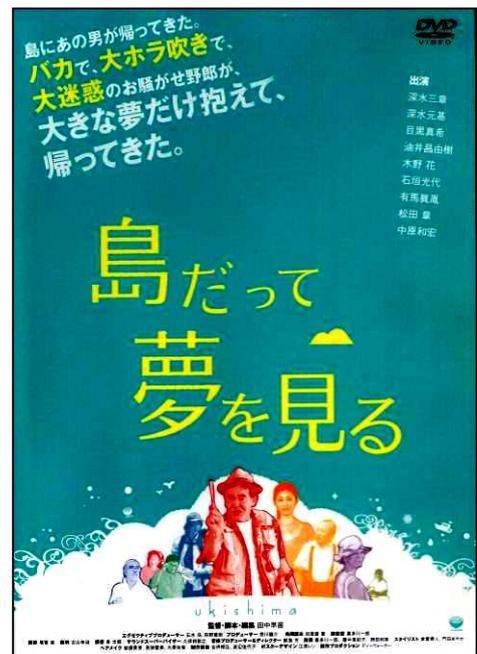
料金：無料

定員：各回先着15名

申込み：2月12日（土）午前10時から

電話(018-828-4215)

または開館中に直接、新屋図書館カウンターへ



2月のおはなし会

2月のおはなし会は
新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止します。
ご了承ください。

新刊案内

じつは私たち、菌のおかげで生きています

今野 宏／著

ワニ・プラス 請求記号 588.51 (発酵・微生物)

菌、発酵、麴と聞くと、食品や調味料、お酒などのイメージが先行しがちですが、環境や医療など様々な分野での利用が進んでいます。また、腸内細菌は体だけでなく心の健康にも深く関与し、「じつは私たち、菌のおかげで生きて」いることがわかります！



ニホンカワウソは生きている

宗像 充／著

旬報社 請求記号 489.58 (哺乳類)

2012年に絶滅種に指定されたニホンカワウソ。その絶滅を疑問視したフリーライターによる渾身のルポです。最後に目撃された高知県を中心にその痕跡を追います。「幻」となったはずのカワウソたちが、まだどこかで生き続けているのかも…と思えるような一冊です。

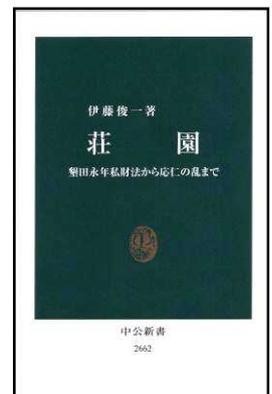


荘園 墾田永年私財法から応仁の乱まで

伊藤 俊一／著

中央公論新社 請求記号 210.4 (日本史)

荘園は支配層の私利私欲によるものという見方が強い制度です。しかし本書では、荘園制が時代の流れに伴ってその姿を変え、広がったことで日本の貨幣経済化を進めたという解釈がされています。農業・物流の発展に大きく貢献したとされる荘園の750年の歴史をひも解きます。



ねこのふくびき

木内 南緒／作 よしむら めぐ／絵

岩崎書店 請求記号 91キ (読み物) ※小学1年生ころから

みゆが学校へ行く途中、知らない男の子が後を追いかけてきました。男の子は自分のことをみゆの飼い猫の「ルーク」だと言います。そして、ねこの町のふくびきで一等賞が当たって人間になれたので、学校に行ってみたいと言うのですが…。どんな一日になるのでしょうか？



図書館員（飯野 敏）のおすすめ本

書名

みんなとおなじくできないよ
障がいのあるおとうととボクのはなし



著者名

湯浅 正太/作 石井 聖岳/絵

出版社

日本図書センター

所蔵

明德、土崎

請求記号 Eイ (絵本)

主人公のボクには障がいのある弟がいます。言葉はつかえるし、行動も遅い。そんな弟に両親はいつもかかりつきりです。

ボクは弟のことは大好きなのだけれど、両親は自分には構ってくれず心がグチャグチャになることがあります。

ある日、公園で友達に追いかけている弟を助けたとき「みんなとおなじくできない

よ。」と言われて、自分の知らなかった弟の悩みに気がつきます。

「おとうとのことをもっとわかりたい」それからのボクは、弟のいろいろな面を見るようになりました。

著者は千葉県の小児科医。病気やハンディキャップをもつ兄弟姉妹の支援に取り組んでいます。本作も自身の経験をもとにしたものです。

図書館員（鈴木 希未）のおすすめ本

書名

まれびと

著者名

石川 直樹/著・写真

出版社

小学館

所蔵

明德、新屋、土崎

請求記号 386.81 (写真集)



皆さんは男鹿のナマハゲを知っていますか？秋田とは切っても切れない存在ですよ。では、私たちにとってのナマハゲと同じように他県に伝わる異形の神（まれびと）のことはご存知でしょうか？

この本には、南は九州・沖縄、北は北陸・東北に伝わるまれびとの姿が掲載されています。著者である石川さんが実際に祭祀に参加し撮影

した写真（臨場感が凄い！）に、逸話や解説も添えられており大満足の一冊です。

ページをめくると目に飛び込んでくる様々な異形の姿。「こんな見目で一体なにをするの!？」と思いますが、彼らの大半は祭祀を通じて私たちの生活に豊穡や福をもたらしてくれるとのこと。皆さんもこの本をきっかけに不思議なまれびとに触れてみませんか？

記事になったお酒の話題あれこれ……新酒できました…

千歳盛酒造（鹿角市）の酒蔵の入り口に新品の杉玉が吊るされたという記事が、先月の秋田魁新聞に載っていました。緑色の杉玉は新酒が完成した合図。なんとも心が躍ります。コロナ禍で酒造業も大打撃を受けている中、試行錯誤しながらも新しいお酒を造り続けてくれることに、日本酒好きの私としては感謝の気持ちでいっぱいです。感染状況を見ながらではありますが、今年は多くの酒蔵で、酒蔵の開放や地域のイベントへの出店など、準備を進めているとのこと。

杉玉は新酒ができた合図でもあります。造り酒屋のお守りでもあるそうです。どうかコロナ禍の困難からも守られますように。

新屋は、醸造の街。
新屋図書館には、酒の
資料コーナーがあります。

【参考資料】

秋田魁新聞

2022年1月15日

『醸造の事典』

朝倉書店 北本勝ひこ 他／編

今、あなたへ……愛を読む……



2月はバレンタインデーの月ですね。しかし恋をするのは人間だけではありません。愛には色んなものがあります。

『愛のへんないきもの』（早川 いくを／著、ナツメ社）は多種多様な生き物の求愛行動や駆け引き、苦労話を収録しています。

『恋する昆虫図鑑 ムシとヒトの恋愛戦略』（篠原 かをり／著、文芸春秋）は、大の昆虫好きの著者が恋愛における虫の生態を紹介しそれを〇〇系女子と分類しました。昆虫チャートでは自分がどのタイプの虫なのかを診断できます。

『浅田家』（浅田 政志／著、赤々舎）からは家族愛を感じることができます。家族の思い出作りに様々な衣装やシチュエーションで撮り続けたユーモアたっぷりの写真集です。

みなさんも色々な愛の形を見つけてみてください。



図書館員のひとりごと

今年は2022年。2月22日には2が6つも並ぶ、今世紀最大の“ネコ年”です。（ついでに干支も“ネコ”科のトラです!）

調べてみると、アメリカでは10月29日、ロシアでは3月1日、ヨーロッパの多くの国では2月17日が「猫の日」とされており、また、これとは別に国際動物福祉基金が2002年に制定した「世界猫の日」は8月8日なのだそう。

こんなにたくさん猫の日があるとわかったら、「猫をかわいがる人間は、世界のどこにでもいるものなんだなあ…」となんだか心が温かくなります。（鎌田）

ブラウニー、マリトッツォ、フラペチーノ、カヌレ、キッシュ…。同僚の日常会話に出てくる片仮名言葉。最初はスイーツであることすら分からず、本やネットで教えてもらいながら、だいたひ語彙がふえてきました。お菓子屋さんの売り場もきちんと見るようになりました。「これおいしそうだね。」と新商品の写真を眺めながら目を輝かせて話している同僚に、「それ何?」と尋ねると、決まって不思議な片仮名言葉がかえってきます。名前を知らなかっただけで、昔懐かしいお菓子だったりすることもあり結構楽しい…言葉を介したスイーツとの出会いを楽しみにしている今日この頃です。（伊藤）